

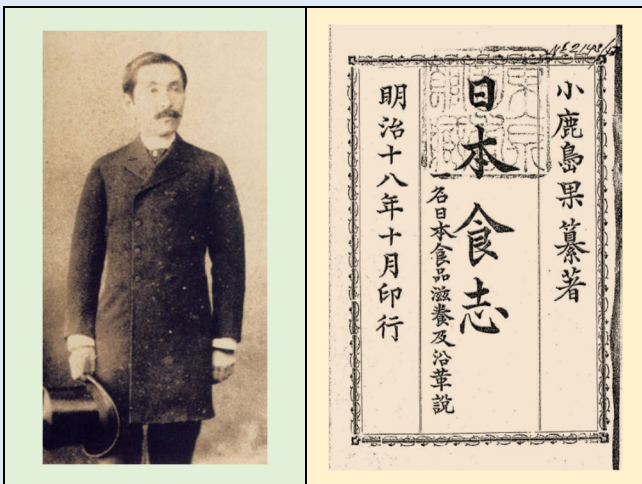
奥積雅彦（総務省統計研究所教官）

## 小鹿島果の著書にみる統計魂【その2】日本食志

## 1 はじめに

統計図書館コラム特別編【No. S06】「統計の黎明期を支えた太政官（政表部門）・統計院の職員」の作成過程で、小鹿島果について調べる機会に恵まれ、同コラム【No. S07】で彼の著作「日本災異志」に係るトピックスを調べた結果を紹介したところ。今回、彼のもう一つの代表的名著である「日本食志」に係るトピックスを調べた結果を紹介します。本稿の転載した資料等で、現代ではあまり使わない表現と思われる箇所などがありますが、原文を重視するため、そのまま掲載しています。

小鹿島 果 おがしま はたす  
(1857-1892)



【写真】：滝乃川学園 石井亮一・筆子記念館 提供

【画像】：国立国会図書館デジタルコレクション

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849126/1>

※小鹿島果のプロフィールは統計図書館コラム特別編【No. S07】参照

## 2 日本食志とは

日本食志は、食品について品目ごとに、国内の資料（古くは日本書紀）からその沿革、国内外の文献から栄養成分の構成（百分比）などを取りまとめたもので、**序文、凡例、引用書目一覧、目次、本文**（11章）、**附記**（第一～第三）で構成され、明治18年（1885年）に出版されたものです。

**引用書目一覧**をみると、国内233種類、国外39種類（イギリス22、フランス7、アメリカ5、ドイツ5）の膨大な資

料となっています。国内の資料の中には、「第三統計年鑑」、「内務省統計全書」、「東京府統計全書」、「和歌山県統計概書」、「統計集誌」、国外の資料の中には、（ドイツ）ハウスホーヘル著「統計学教室」、（フランス）モーリスブロック著「仏国及欧州諸国比較統計書」、イギリス「統計集誌」といった統計関係の資料もあり、当時、統計院に在籍していた小鹿島果の統計魂（情報収集、調査研究を不断に努力する姿勢）が活きているように感じます。

また、**附記第三**で、たんぱく質を多く含む肉食を推奨し、**附記第五**で、煙草の害について警鐘していることが印象的です。

## 【本文・附記の構成】

第一章 食用通論/食物ハ諸品ヲ併用シ単一品ヲ用ヒサルヲ要ス  
食量過不及ノ害/食物貯蔵法  
第二章 穀類及菽類/根塊類及瓜瓞類/茎葉類及菌類、香辣類  
第三章 海草類  
第四章 製造食品類及製造補食品類  
第五章 水類  
第六章 酒類  
第七章 魚類附軟体類及介虫類  
第八章 鳥類及鳥卵  
第九章 獸類及乳汁類  
第十章 菓実類  
第十一章 糕料類  
  
附記第一 食物調理論  
附記第二 食物消化論  
附記第三 人ハ務メテ肉食ヲ為シ植物食ヲ用ヒザルヲ要ス  
附記第四 欧亜諸国病院患者及兵營ニ在ル軍人食、品定量録  
附記第五 烟草論

※引用書目一覧、本文、附記の抜粋は【別掲1】～【別掲4】参照

## 3 日本食志の序文

日本食志の序文は、細川潤次郎（明治時代の洋学者、法務官僚。当時、元老院幹事<sup>1</sup>）と長与専斉（医師、医学者、官僚。当時、内務省衛生局長<sup>2</sup>）が、記しています（【資料1】【資料2】参照）。細川潤次郎と小鹿島果の接点については不明です。長与専斉と小鹿島果の接点については、二人の共通点は大村藩ですが、それ以上のことは不明ですが、参照資料には衛生局の協力を得て入手した情報も多いことから、その縁で序文を依頼したのかもかもしれません。

## 4 おわりに

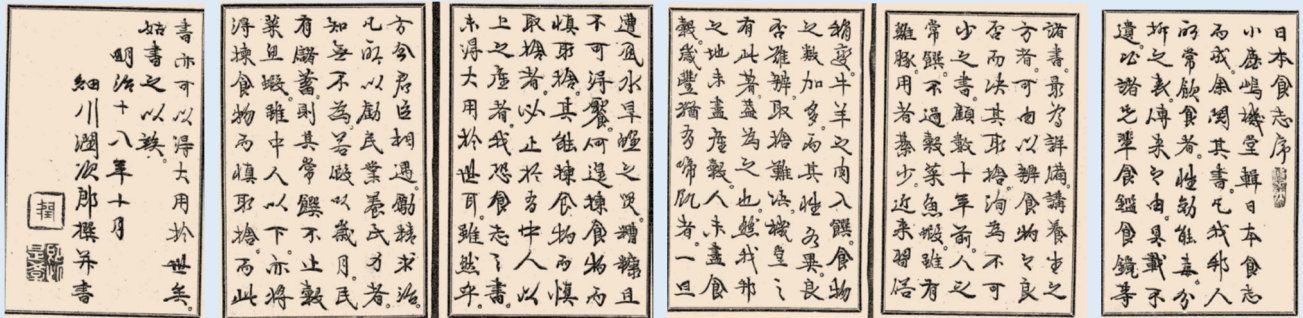
本稿で紹介した「日本食志」において、沿革を調べる手法は、後の「日本災異志」（明治27年<sup>1894</sup>年刊行）に通じるものを感じます。「日本食志」は国民の食生活の改善による健康増進を目指し、「日本災異志」は国民を災異から守ることを意識しているように感じました。筆者は、この2冊から国家の統治について改めて考えさせられました。

<sup>1</sup>【参考資料】改正官員録.明治18年上10月（国立国会図書館デジタルコレクション）<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/779351/22>

<sup>2</sup>【参考資料】改正官員録.明治18年上10月（国立国会図書館デジタルコレクション）<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/779351/38>

【資料1】 【資料2】

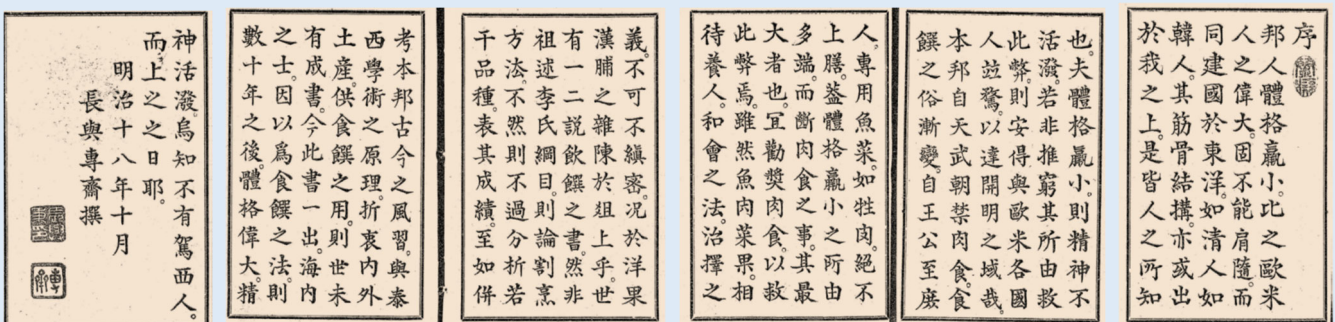
【資料1】 細川潤次郎の序文



【画像】：国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849126/2>)

二口メモ この細川潤次郎の印章と同じものを使用している文献について国立国会図書館デジタルコレクションで探索したところ、ブーヴェール 著、細川潤次郎 訳注の「法律格言」(元老院蔵)の序文における細川潤次郎の印章と同一であることが分かりました。印章も人物特定のための手がかりとなることを実感しました。

【資料2】 長与専斉の序文 ⇒欧米人に比べ邦人の体格が小さいのは肉食をしないことが原因であるとしています。



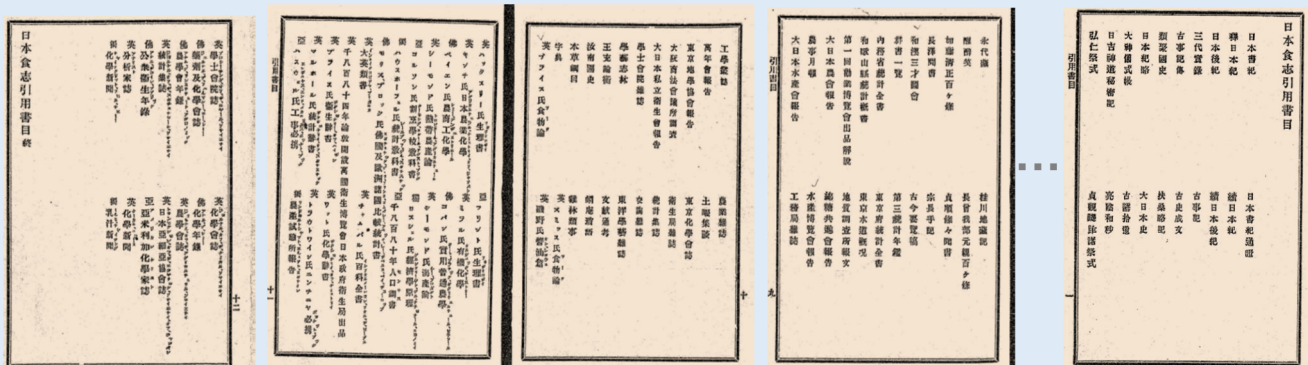
【画像】：国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849126/5>)

二口メモ 長与専斉は、明治4年(1871年)岩倉使節団に随行、西欧の医学教育を視察、調査。同6年に帰国後、文部省医務局長。同8年内務省衛生局の初代局長を歴任。(明治8年に文部省医務局は、内務省に移され、部局名も衛生局に。)

【参考】国立国会図書館HP「近代日本人の肖像」、国立公文書館アジ歴グロッサリー(保健・衛生)、アジ歴地名・人名・出来事事典(内務省>長与専齋(長与専齋))、金子俊著『内外識者からみた明治日本の食』

【別掲1】

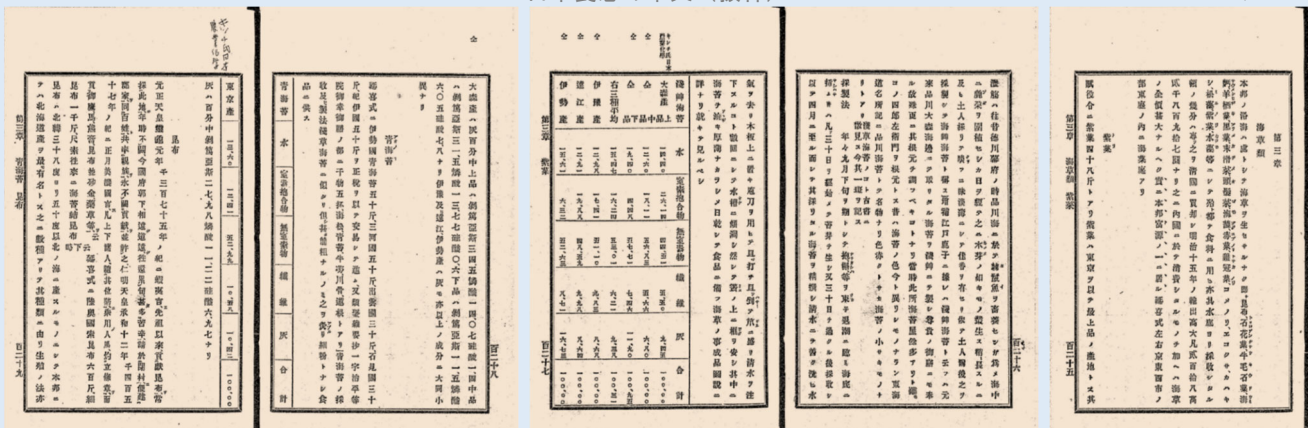
日本食志の引用書目一覧(抜粋)



【画像】：国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849126/9>)

【別掲2】

日本食志の本文(抜粋)



【画像】：国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849126/80>)

【別掲3】

日本食志の附記第三（抜粋）

右ノ内全ク消化シテ取セラレシハ

消化セシモノ	固形体	蛋白質	澱粉
消化セシモノ	三五六六	三八七	二六三六
消化セシモノ	一七九	四四四	二八二

是ニ由リテ之ヲ觀レハ植物食中ノ蛋白質ハ過半消化ヌ又成ルヘク同量ノ澱粉分ヲ有スル左ノ動物食ヲ與ヘテ五日間試験セシニ其消化大ニ植物食ニ勝ヤレラ知レリ即チ

日本食志附記第三

人ハ務メテ肉食ヲ爲シ植物食ヲ用ヒサルヲ要ス此一層著大ニ日本私立衛生會報第十號ニ載ルニ依リテ凡ク植物ヲ飽食ト肉類ヲ飽食ヌルトハ大ニ生理的ノ作用ヲ異ニス即チホフマン氏ハ穀皮ヲ去リタル新鮮ノ馬鈴薯百五十六グラムニ對シテ百七五八分三厘蒸餅四十瓦十枚ヲ取リテ之ヲ生理學ノ俵夫ニ食セシメテ六日間ノ試験ニ由リテ左ノ成績ヲ得タリ

馬鈴薯	固形体	蛋白質	澱粉
馬鈴薯	二七〇	二四九	二四九
蒸餅	一八一〇	五四九	二二四
一日ノ總量	四七二五	三三三	一七六
		八三一	二九七〇

人ハ務メテ肉食ヲ爲シ植物食ヲ用ヒサルヲ要ス 四百六十二

概シテ蛋白質ハ動物食ニ多クシテ植物食ニ乏キハ既ニ前ノ各頁ニ在ル分析表ニ詳シリ且植物食ハ富ニ蛋白質ヲ含有スルコト少キ而バナラズ其少量ナル蛋白質ノ消化甚難シルホフマン氏ノ右ノ試驗及乃其蛋白質百分ヲ得ントスルニハ其百分ヲ食セザル可カラズ實ニ植物ノミニテ肉食ノ滋養分ニ相當スル額ヲ食セントスルニハ非常ノ多量ヲ用ヒザルヲ得ヌ

カレド植物食ハ廉價金壹圓ヲ以テ買得ヘキ蛋白質ノ量ハ大豆千五十グラム大凡一千六百七十グラム小豆八百十五グラム二百九十グラム大凡一千六百七十グラムニ等シキ植物食ヲ用ヒザルヲ要ス 四百六十七

【画像】：国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849126/249>)

リンセン：レンズ豆（ドイツ語⇒Linse）  
 余談 ちなみに公益財団法人 日本豆類協会HPによれば「形が凸レンズに似ているからレンズまめ？と想像しがちですが、実際にはその逆で、後世に発明された「レンズ」の方が、この豆に由来して名付けられたと言われてます」とされていました。

【別掲2】

日本食志の附記五（抜粋）

上進シ本邦ニ於テハ歐洲諸國人ノ喫煙量ニ於テ明治十二年及十四ノ三年間平均ノ葉煙草産出額ヲ右三ヶ年平均ノ人口ヲ以テ除シ毎年大凡一人ニ付二百二十六匁ヲ飲用スベキ概數ヲ得人類ノ天性此煙草ニ向テテ生命ヲ犠牲ニ供スルモ嗜好ノ理由アリテ其然ルヤヲ知ラス

日本食志附記第五

煙草論

左ハ學及中外志者米國大醫タルログ氏著自家衛生論其諸書ヲ摘譯抄出シ明治十七年四月十二日工學會席上ニ於テ演說ナレタル者ニ據リ傍竹橋餘筆著喜遊愛覽國民統計年鑑內務省統計全書頗瑣語佛人ブロノ氏調查文獻人ハウスキョフノ氏統計書國人ロシヤノ氏經濟書原理英人ナライス氏衛生辭彙千八百八十二年三月版行論統計集誌論並版行化學新聞等ヲ參考シ建テ煙草慣用ノ起原〇今ヲ遡ルコト四百年ノ昔ニ在リテハ烟草タルモノハ開化人民ニハ絶テ之ヲ知ル者ナク只當時米國人ノ知ラザリシ所ノ亞米利加洲ニテ野蠻無智ノ土人之ヲ用ヒタルノミ

四百八十一

界ニ在リテモ亦均ク之ヲ嫌惡ス米國ホストン府ニハ今尙喫煙律ヲ存ス今ヨリ十餘年前一職工街上ニ於テ之ヲ記シタル條紳紳ノ上若干ノ罰金ヲ科セリ

四百八十四

白耳義	荷蘭	英吉利	伊太里	國民一人ニ付一十年煙草服用ノ量	國民一人ニ付一十年煙草服用ノ量
白耳義	荷蘭	英吉利	伊太里	六九五	二二三
				五三三	一六五
				四九二	一三三

四百八十七

地	丁	諸	地
地	丁	諸	地
地	丁	諸	地
地	丁	諸	地

【画像】：国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849126/258>)

…本邦ニ於テハ…統計年鑑ニ拠リ明治十二、十三及十四ノ三年間平均ノ葉煙草（=煙草）産出額ヲ右三ヶ年平均ノ人口ヲ以テ除シ毎年大凡（おおよそ）一人ニ付二百二十六匁（=472.5g=126g×3.75g/g）ヲ飲用スベキ概數ヲ得人類ノ天性此煙草（=煙草）ニ向テテ生命ヲ犠牲ニ供スルモ嗜好ノ理由アリテ其然ルヤヲ知ラス（そのしかるやをしらず=そのようにするの分からない）

【あとがき】

国立国会図書館デジタルコレクションに掲載の「日本食志」は、マイクロから作成されていることなどもあり、不鮮明な文字があり、レンズ豆のような老眼鏡を使用している筆者にとって苦行でした。そんな中で、たまたま、一般社団法人JミルクのHPの酪農乳業史デジタルアーカイブに会い、同サイトで鮮明な「日本食志」が閲覧でき、不鮮明な文字の確認に役立ちました。